

仏様に守られ安心して、力の限り努力する
「天命に安んじて人事を尽くす(清沢満之)」

自力とは、自分の力で頑張って生きることです。他力とは人に頼ることではなく、衆生(全ての生き物)を必ず助けるとの『仏様(阿弥陀仏)の誓の本願力(大自然の働き)です。この世には他力しかなく、他力の中で頑張っているのが自力なのです。が、現代人は自分の思い通りに生きようとします。頑張って長生きしようとしても無理でしょう。私が生まれたのは、大昔から続く先祖の御陰であり、生まれる時代・場所・性別も自分で選べません。老・病・死も私の思い通りにならず、楽に生きようと懸命に頑張る程、苦悩します。

『西遊記』の孫悟空が、雲に乗って幾ら飛び回っても、仏様の大きな掌の中でした。私達も『仏様に全てを御任せしてある』からと、病気の時は苦悩し・辛い時は泣けば善いと思うと、先々の不安や心配はいりません。苦悩から逃げず、自分なりに努力した後は『仏様の御考えで、こんな結果になったのだ』と思って安心しましょう。

主な参考資料

- (1) 田代俊考(著)『慈悲のかわりめー歎異抄「再考」』在家仏教協会、p.42～67(2014年11月)。
- (2) 中村薫(著)『ひとくち法話・いま伝えたい言葉』法蔵館、p.9(2011年)。
- (3) 河野法雲・雲山龍珠(監修)『真宗辞典』法蔵館、(昭和53年)。